

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Black

厚生新編

洋学文庫
文庫8
C 46
1





浄書

浄書 諸君、此字行取目細く、先念社一安、
重複を以て多量に書上、亦此本を多量に書上、
先念社譯者方、亦此一多量に書上、
糖店



瞽目樹

エブソフ

指魚

エブソフ

魚木

エブソフ

エブソフ

厚生新編

凍寒の二に續キ
乙巳五月墨付十三丁

日本樹の義なり

此樹馬路古 諸島の海濱に生る。松露を幹屈曲して塊節

多く枝下垂し亦塊節あり。雌本雄本あり。雄本の皮滑澤

を赭色見美観なり。雌本の皮黒く多く粗糞なり。○

葉、梨葉に似て長四寸濶二寸尖りて滑澤縦横に細理

あり。雌本の葉は雄本の葉よりも滑澤鮮緑なり。若葉

間より葉莢を生る。榛莢の如し長サ小指の如く大サ

麦稈の如し子コ黄緑色皆細花より一花三鬚各黄葯

あり。花後実を結ぶると楊の雄莢の如し。○雌本も亦莢

を生る。雄莢より初小く緑色の小実を綴り実熟る

を形甘遂大戟類の実の如し。穂を為して垂る。内は三室あり。毎室滑澤の子三個を含む。

リムピウス名此樹を「シキリキ」云々トコセシ。按は水夫と名く

蓋し水夫海上より此樹を望見薪をせん。上陸して伐り或上陸の路を

開んて斧伐る。水夫所舎乳白の津液迸り眼を射り其

毒を眼燉衝し劇痛耐べり。急に治瘡を加ふれば失

明らる。阿比心なり。加之此樹の叢中或朽穴中より常有毒

蛇、螳蜂蚊蠅の類夥く住此樹は近く者の耳中髪間亂入る。水夫なり

況や此樹の津液内服せば甚密の毒を為す。量知

べり。云々

幹或ハ露ヲ根よ傷惡切リ皮と心の同ハ堅実なる赭色の脂質アリ是ヨ此樹の白材ナリ幹大サ二三指根大サ刀脊ヲ過キ内諸色、外皮日ミシタ中光有惡ハ真黒、脆ク碎易キモ硝子の如ク火ヲ烘キ必油流出ル火を点ラ必蠟燭の如ク燃ハ燭ハテ日を経ル者ハ佳香アリ安息香の如ク日を経ル者モ燒む香氣甚多シ或の香木香料を和シテ焚香子用ふ味苦ク沉香の如ク又支那ニ製造スルカ沉香羅子似リ但一年久シク塊節、折裂、朽穴多ク且ツ蠶蜂蚊蠅久ク其脂液を吮ムテ枯燥スル者ハ香氣最醇郁ク雄本ハ雌本より色痛ク香氣も佳ナリ ○テルヤ々地名

の産ハ赭色、灰黒雜リ細脈アリ香氣殊ニ佳ナリ又赤黄雜ル者、全く黄色ク黄檀の如ク紋理ハ滑ク者アリ黄なる者モ灰黒の者の如ク香ハ但シ焚用ハ灰黒の者を良ク一擇用ふ

或云政羅巴の坊間沉香ト坊間ニ賣ル者ハ皆此木ナリ暹羅及支那ニ真の沉香ト稱シ其上品の者を伽羅ト名セ交趾ニ多ク印度人の將來ハ價貴ク一秤錢ハ銀二錢の價アリト云然レモ此説信用ハ之ノ如ク政羅巴ニ買賣スる沉香三種アリ香ニ脂の多少ハ品を分クナリ又或説ハ此樹の根ニ近キ處の心即チ伽羅ナリト云フ火ハ

方は配伍を沉香の代りより前より用ふる或は
伽羅を亞刺比亞のマスパラニマスなりと云ふ詳を云ふ

○亞墨利加地方は野伽羅と名る一種の材軽く脂を
多く緑を帯く諸色、甜香あり味苦し大塊あり二匣に造
り蓋は旋々蓋物と云珠は「ローセンカラセン」譯を造る

○スフロフ

ヒマテルホウト蘭
コチニス コリアリア羅

羅甸を又「コッコニア」又「コツレグリア」と名る ○コレニア人
の説「バドシ」の諸山は産る又アヒグレン地の邊にも生る
云ふ「リネウス」ハ「アペニイセ」諸山の麓 ロムバルタイ地 及カルニ
フリイは産ると云 加アゲル人の説ハ「ダウヒ子」地に生る

土人此皮を獸皮を消軟用ふ故は或此を「リス コリアリア」

なりと云 地の人ハ葉及嫩芽を取る綿布を黒

漆の料と一婦人の衣箱を造り衣服の塵を

サホイア細の土人ハ樹皮を去り幹枝を煮煮汁を吹呢

を黄色に染む木を「ピエマト」と名る アペニイセ山麓の

人「ロツロ」山頂の人ハスコノと名る 山林のそとより山頂

あり生る

トウル子エルト人のの説は佛蘭西の中國まで此樹実を熟せ

ば「ブルバ」人の説は実ハ円く外は堅皮あり分裂せハ内

は三稜の子あり ○醫 スコホリの説は「カルニフリイ」地に生る

高三四尺
灌木を見る葉滑澤鋸齒無く邊白く透明な花

み峯穂を坐し紅英を吐く花後軟実を結ぶ花初葡萄

葡萄房の如く暗緑色なり「タレシヤム」^{人の}葉は用々を扇

の如く織毛茸として軍兵兜上の鳥羽の如く毛絮の

内ふ黒子を結ぶ子状心藏の如くスコマリ^{人の}軟実滑

澤ゆく扁平ハルデルヌタスコロイド^{草の}葉の如くと云

効力 全草収瘡の性有り葉を煎湯と一口中咽喉

潰瘍を洗^汚穢を去る「スマック」の煎汁の如く含漱劑に

○プリニウス^{人の}の所謂「コチニス」ハ赤色を染む皮根を用

指魚 譯名
○ヒレダヒツセシ蒲

ホウトクシ^{人の}各名ル^魚魚属なりゴロノヒツス^{人の}ハ厄利齊語

て「ホト子ニス」と名く此魚属ハ胸鱗の下は線條の如

物下垂る「リチナス」之を「ヒレダヒツセシ」指と名く亦他魚

属は無き石の物ま^此魚特り此有り故に「ヒレダヒツセシ」^魚指

の名を命ぜり「ヒレダヒツセシ」ペンタ子ウスと名る者^此五條其

他^指ハ七條有り

所謂下垂の物ハ此魚属の最著しき目徴なり全身ハ

鱗有り嘴甚し鈍まて有り出^指鰓膜ハ五或七の小骨

有りゼーハ子^魚属ハ胸鱗と共「ヒレダヒツセシ」^指

腹鰭の位置と^指トシテ^ルは關節無きと云ひ此屬と云
別々

此魚リチウスニ三種を挙げ初ノ二種ハ亞墨利加地方後ノ
一種ハ東方諸國ノ産ナリ

○第一種 五指ニ魚 譯名 ハイフヒビゲリヒヒンゲルヒス 蘭

ホレ子ニマス キユインクワリス 羅

所謂線狀ノ下垂物細サ十二分冊指大の一ニ過キ其
中ノ二條長サ身ト等一上なるハ短ク下なるハ最短

或云 身長サ八寸ナリハ^音指最長ノ者ノ長サ一尺五寸然レモ長
短ナリ身ハ^音倍ニ又^音尾端^音ノ長サを精ク測ル^音 *Handbook of Fishes*

尾より^{第三最長の}垂指ノ端までハ一尺五寸又四寸一

此魚ハ「ゴロノヒウス」名「セバ」ノ珍物庫を買^得より初ク改

羅巴ニ知^りたり其記ハ云頭ニ身ハ^音濁^音タリ高ク頭大ナリ

ギ嘴鈍頭^{上顎}ハ細^音生^音舌滑澤ナリ眼円ク大サ中等頭

ノ两侧嘴ハ^音近接^音して着ク鼻孔大ク鰓ノ開キ頗^音濁^音

セイドストレ^音各不詳^音 胸^音狭ク扁一前^音鰭^音七骨後

鰭^音十六骨共ハ尖ク刺ノ如ク^音腹^音鰭^音六骨^音腹^音鰭^音六骨内

一骨刺を為一尻^音鰭^音二十骨^音内^音二骨^音刺を為一尾ハ

濁大十七骨

鱗ハ甚大ナリ白ク^音撓^音屈^音一薄^音一後^音方^音ハ^音鋸^音葉^音ナリ

綱

不実なり其樹を「アムチ」レケキタタ」といふ「アムチ」樹屋の名

一種より他種と區別有る故に其實は刺なく又鱗なき皮

平滑を網紋有り石を以てする「マラルセ」コロイトトフ書は所謂「アムチ

マラム」を「リュムピウス」各ゲ「アムチ」の第一種即ち尋常「アムチ

ノチ」是なり「スロア子」各ハ最大「アムチ」葉狭長黄色尖四の

大実を結ぶ者と各「アムチ」皮滑澤を界段文有り宛も「キ

スタルト」雞卵と乳汁と和し焼く「アムチ」の如し故に諸元利無

て「キスタルト」焼の類なり「アムチ」と名く

蔓三分毎分心蔵形花六瓣質草の如く花梗無し其外

の三瓣ハ大く長く尖らざる厚し肉の三瓣ハ足虫形を蔓の

分より小なり鬚葉見へ難く葯は多し内は子宮有り子宮の

上は実基有り心葉無し唯鈍き柱頭多く簇生するもの

実ハ大なり形心蔵の如く皮滑澤を格眼子様の段文有り

中子滑澤あり長く扁し

実人掌より大は形牛心に似たり滑澤あり鱗甲、疣瘡なき

格子文多しハ五角なり熟ると暗黄色或ハ赤を帯ふ取

阿つらひ巨つらひを赭色と為し速に腐る肉ハ白く軟脆

又味甜く香を微なり印度人の食用なる未熟の実ハ片

と切し乾用經久の下利は効有り○カリビセ諸島は産

に仙蘭西人がシマニ、カール、デアア」と稱ふ牛心の義に

出ムピウス」が所謂尋常東印度産のアンチ「ハリシナウス」亦
 此に属する「ヤクギイン」ハ新種^{一種}名を建くる「粘滑」
 名く其肉粘滑なる故なり味も美なりぐん炮なる搦持の如
 くと云○ヤクギイン」ハ「マルケニ名 緬の林中より野生の者を見
 うり形状大異無一但花の外瓣合生一莖分潤く飛りて
 花の全形當時の帽より似たり実も疣瘡有り刺無一仙蘭
 西人は是を「カシマン」モル左ウキス」と呼ぶ「スウテリグ カシマン」の
 義なり故に予「スウト マプル」と名くと云

○魚木 譯名 ヒスポム 蘭 ヒスシチア 羅

○榕按は様姑^{デダ} 琉球 相思子の類の總名たるべし

目徴ハ柱頭尖り莢を結ぶ莢は四翼有り ○今二種を属と
 ○第一種 小魚木 ケイ子、ヒスポム 蘭 ヒスシチア エリ
 ーテリナ 羅

リシナウス」ハ「コラルギム」^{珊瑚木}の属中より収む故にエリーテリナ
 の名を命ず「スロア子」名ハ復葉無刺の珊瑚木と名く其葉
 苦樞木に似く莢の狀^{車輪}水磨の車輪に似たり「プリミール」^人
 ハ「バスタルド アカシア」の莢は翼有り者「ヒルマンニス」^人ハ「ロビ
 ニア」の莖は枝有り莢は翼有り者と名く、實は梅の如く「ゴウ子
 人」^{厄利齊亞語より}ハ「イクテラメチア」と名く魚は毒あると云義なり此樹の葉^枝
 と碎て河池に置を魚酔く水面に浮出するを捕へば

ト因るなり西里利加ハ此性^毒有木類多一總く「バルバスコ」名
「アルバスキム」草ト亦此毒有り今此属を「ビスシゲア」と名
も此^魚毒性ト因るなり故ト魚木ト^名聽^く

ヤクモイシの説ハ此樹牙賣加^地の路旁ト多ト直上ト云ん^も

形状何^故ハ他樹ト區別ト易ト葉羊歯葉ト羊ト落^ウ
花ハ草ト一瓣蛾形ト十鬚甚^ウ有り攢簇ト開^ク実ハ
莢トて扁^ク遠^クト四翼^ウ有り内^ハ一室^ウ有り許多の腎状細
子を^収含^む

諸厄利亜人ハ此樹を「ドクダリアト」と呼ぶ「スロア子」の説ハ
魚を麻醉^ウる法ハ根皮を搗^クま^キト布袋ト納^ク河中ト

て按免^ハ河中の水族^ト毒^ク醉^ス根皮を河中ト折傷^ク
ト亦よく其効^ウ有り此ト醉死^スト魚ハ食^テ此^ノ毒^ヲ得^ル
ト無^ク

○第一種 大魚木 ^{ゴロテヒスボム} 蘭 ^{ビスシゲア} カルタ
キ子^ンシス 羅

前種との區別ハ羊歯を為^スト葉先尖^クト鈍^クなり其他
生^ル前種ト似^クト^モ大^{ナリ}カルタ^{ゲナ}地^ノ林中海
岸ト多^ク

○ハイフヒニゲルコロイド 蘭 ^{シヤレア} 羅
又「スマルメセレン」と名^ク灌木^ノ草^{ナリ}

ミナリセ 名目 アホリニム 請厄利亜 名目 スヒルゲ フリ左 波羅
尼亞 名目 井ルメイ ビルシニニスイ 獨乙 名目 ケルハルス 又
セイデル 名目 ハスト 名目 と名く

目徴 花草瓣漏斗状 四出 心葉 多る 萼より 心葉 花柱を抽 心葉 柱
後 心葉 又変りて 実となる 実或ハ多液の者有り 或ハ乾枯の者の
で 実中ハ 長細子有り

此草種類多し「ミルレル」の植字韻府ハ四十種 心葉 を載せ「ト
ウル子 売ト」ガ書ハ三十五種を載せり 今茲ハ最常有の
者二種 心葉 の之を挙ぐ

○第一種 亜麻葉の者 ヘイフヒンゲルコイト メット スマルレ

フラス 名目 フラトシ 蘭 テイメライ ホリス リニイ 羅

○第二種 葉灰色 柔軟 虫形の者 ヘイフヒンゲルコイト メット

イロシ 名目 ゲトセ サタ フラトシ 蘭 タルトン ライレ 羅

以上二種ハ 灌木なり 伊斯巴尼亞、意太里亞、南仏蘭西等ハ
産す

○ヘイフ フイクボム 蘭 ア左ルラ カラムボラ 羅

羅甸 名目 又「タマラ トシガ」又「カラムボラス」と名く 此レ 通常の「プリム
ビニク」なり 麻 棘 襪 名目 尔 名目 又「タマラ トシガ」又「カラムボラス」と名く
リムピウス 名目 ハ此実を「プリニム ステルラニム」と名く 星 李 子の
ニ我なり 実を 横断 せん 星 状 を 為 せん 故 たり ハ

ニニスハ 卧垂の八稜果と名く五稜を誤く八稜と認り
ヨメレイシハ 臥著と「マズルセヨイドホフ」書ニ圖有る五稜
たるを以て證すべし 又ス々ハの説ニ麻辣襪ル人、波尔杜
尾ル人の稱有る「カラムボラス」マレイシハ其他印度人の呼ぶ「ボリ
バ」ハ溝路有る四分と云「ブリムビシク」ハ麻辣襪ルの後
五稜を云なり然るを「カラムボラス」とハ別なるべし

此樹高ヤ人身子等し上ハ葉四布し織の如く緑陰茂り
葉一梗四五對、葉子葉は似て小なり、末は至る不随く
大く最末ハ最大なり、面隈緑背ハ丸く灰色を帯ふ、夜ハ
下は垂く、眠る枝或ハ幹稍とり花を出る、花ハ攢簇し

色紅く五瓣なり、萼ハ鐘状実ハ李子実に似て大く五路有り
但し四路六七路ハ者有り、色ハ熟るを黄色、肉ハ液多し
味淡く又甘き者、酸き者有り、甘き者ハ生食して人ハ益有り
暑を消し、熱を解くと云、酸き者ハ食品ニ加者、或ハ糖
漬するの外所用無し

○榕按よ、訶黎勒をえり、訶黎勒一名洪翁と云ハ味
淡き故なり、堅く六稜有り、本説ハ六七路の者有り、と云
よ、今よ「カラニボラス」訶黎勒音相近し、従来者の
考を俟つ



